

徳島県立池田高等学校 100 周年記念ロゴマーク制作への想い

「東のそら」

100 周年記念（1922～2022）ロゴ製作をするにあたって、はじめに考えたことは、池田高校(以下、池高)の現在と 100 年前とで変わらないものってなんだろうか、ということでした。

校舎は変わってしまったし、制服もかわってしまった、では上野が丘はどうだろうか、ここへ通った階段や坂道は変わってないかも知れない。思いを巡らせていると、なぜ、東雲（しののめ）という言葉は池高でよく使われる言葉なんだろうと考えはじめました。そこで、校歌を改めて読み返してみると、「しののめの」「阿讃の嶺」「吉野のながれ」「希望の虹」「平和の空」、東雲から始まり、東のそら（景色）を想像する歌でした。あの歌はすべて東のそら（景色）を歌ったものだと気づきました。前身となる旧制池田中学校（1922～1947）の校歌も東のそら（景色）を歌っていました。

それで、そうかと。

明け方に東の空にたなびく雲も、遠くまで見える吉野川や阿讃山脈と剣山系の山々も、100 年前と変わらずそこにあるのだと。各時代の池高生は、東のそら（景色）の自然の移ろいを何気なく肌で感じ、学舎へ通い、大自然のなかにいることを忘れ、返ってくる山びこを日々楽しみ、上野が丘の広いそらのしたで、現代と同じように過ごしていたのか、と。

これから 10 年、50 年と時代が移りゆき変わっても、それでもこの東のそら（景色）はずっと変わらないでしょう。

紡がれていくものには、目から得たモノやコトだけに限らず、そのときの音や香り、肌からは風の温度や拭った汗の湿度を感じ、それらがからだの一部となって記憶していく、そういった心に描かれた風景も加わっていくのかもしれない。

ロゴマークは、100 という数字を、東の空に浮かび上がった雲を想像しながら、景色に溶け込む透き通った、動きのある軽やかな様子にしました。また、立体的で奥行きのあるかたちにしたことで、1 つの見え方では定まらない、多様な見方があることに気づき、楽しめるものになりました。100 年という紡がれたものを内包しつつ、IKEKO という親しまれてきた校名を携えて、新たな時代へ歩み出してほしいと願います。

KUMA 横山 道雄